

11. 戦後の尚綱 — 根づいた花

11.1 転がる石に苔は生えない

1947(S22)年、戦後仙台に戻った最初の宣教師はジェッシーであった。既に六十五歳で体調も十分ではなかったが、彼女はさっそく活動を再開した。学校の再建に加え、戦争被災者や満州から引き揚げてきた卒業生の援助にも努力を惜しまなかった。

尚綱は1948(S23)年、校名を「尚綱女学院」と改称し、1949(S24)年から1952(S27)年までジェッシーが学院長を務めた。そして、新しい学校制度のもとで、短期大学としての歩みを始めることとなった。

「転石苔生さず」(てんせきこけむさず "A rolling stone gathers no moss.")という昔から伝えられている諺がある。英国では「頻繁に転職したり行動を軽々しく変えたりする人は、結局成功しない」という譬えとされているが、米国では逆に、「じっとしていると古びて使い物にならなくなってしまう、常に積極的に行動し、時代の変化に即して進歩すべきだ」という意味で用いられることが多い。数年に及ぶ戦時体制の下で、尚綱は試練の時代を沈黙のうちにじっと耐え続けてきたが、ついにこびり付いた苔を振り払って動き始める時を迎えたのである。

ジェッシーの尚綱の教育に対する信念

[決して教育の学問的水準の高さを軽んじているという意味ではありませんが] 私たちは知的訓練以上のものが必要であること、本の知識以外のものが劣らず重要であると強く感じております。磨かれた知力が必ずしも高潔な人格を作るとは限りません。知識を行動に移さなければならぬ。…人生を意味あらしめ価値あらしめるには、極めて強力で誠実な関心—中核—を持たなければなりません。その大きな中核とは「神」です。

1950(S25)年 11月

尚綱女学院短期大学開学記念式典式辞

11.2 根づいた花

『根づいた花—メリー・D・ジェッシーと尚綱女学院』の著者であり、自身も最近まで尚綱の宣教師であったR.スティブンスによれば、ジェッシーは、すべての人々に判断の基準をしっかりと育てるよう促した。彼女は、フィリピの信徒への手紙 4:13の「わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしにはすべてが可能です」の聖句を好んだという。彼女は、例えば校舎建設のための募金活動が行き詰まった時のように、人間の力では乗り越えることが不可能と思われる局面を、自分の意志や力によらず、神の意志と導きによって乗り越えるという、一つの「行動のモデル」を示した。

ジェッシーの結論は、「尚綱は、時代の流れによって枯れてしまうような根のない花ではなく、キリスト教というしっかりとした根を持ってきて、生徒の心に深く植えることで、使命を果たさなければならない」というものであった。彼女は四十年

戦後の尚綱 — 根づいた花

の働きの間、信仰に根づいた花を尚綱に咲かせようと努めた。スティブンスは、「今すべての人が問い直すべきは、花の根が生き続けているか、ということである」と問いかけている。

11.3 短期大学の整備

1950(S25)年 4 月、齊藤久吉理事長、ジェッシー院長・学長の下、英語科と家政科二学科編成の「尚綱女学院短期大学」がスタートした。1952(S27)年、家政科が栄養士養成施設に指定された。

1952(S27)年 4 月、ジェッシーが院長・学長を辞任し、創立六十周年行事の中で送別会が行われ、7月に帰米した。

当時、仙台市内の栄養士養成施設指定校は、本学と東北大学農学部生活科学科の二校のみだった。

齊藤久吉の経歴



尚綱女学院理事に就任 1937(昭12)年
以来 理事長、学院長、短大学長、中・
高校長、幼稚園長を歴任

齊藤久吉は、1930(S5)年 4 月、大阪から塩釜教会牧師に就任、1937(S12)年、尚綱女学院理事、1951(S26)年、財団法人から学校法人となった尚綱女学院の初代理事長、1963(S38)年から 1975(S50)年まで十二年にわたり理事長・院長を(1963年から 70年までは学長も)兼務して尚綱を支えた。

この間、齊藤久吉は、当時の農村の窮乏を見て農村伝道に取り組み 1932(S7)年には利府伝道所を献堂、同会堂を用いて農繁託児所、農民福音学校、聖農学園を設立して伝道者の養成に努めた。1972(S47)年、仙台基督教教育院理事長に就任、1986(S61)年、ありのまま舎社会福祉法人化に伴い、初代理事長就任、2006(H18)年 12 月没。

1955(S30)年には保育科が開設され、翌 1956(S31)年、附属幼稚園が設置された。東北・北海道で幼稚園の二級普通免許状を受けられる機関は、当時他になかった。他方、英語科は入学者減少により 1958(S33)年度以降募集を停止した。

11.4 展開期

1960(S35)年、捜真女学校(アメリカン・バプテスト、横浜市)校長に就任した千葉勇の後任として西南女学院(米国南部バプテスト、北九州市)の院長だった吉井正敏を院長・学長に迎えた。

尚絅学入門

吉井は同年 11 月、四年制大学設置、中高一貫教育、学生数三千名、校舎の移転整備などを内容とする必要経費五億円の「拡張十五ヶ年計画」を発表する。また「尚絅女学院後援会」が設立された。

1963(S38)年、吉井正敏院長、後に学長となる島田正雄副学長(当時)、伊藤昌子教授の努力により「尚絅音楽教室」が、桐朋学園大学音楽部附属音楽教室との提携の下で設立された。

1967(S42)年、英文科が再び設置され、荒巻(中山)に新校舎が落成、翌 1968 (S43)年には保育科も移転した。家政科は引き続き八幡校舎で教育研究を続けた。

1968(S43)年 5 月 12 日、名誉院長ジェッシーが米国で逝去した。折からジェッシーの再三の招きを受けて米国を訪れていた三島かほるが遺骨を持ち帰り、遺言により北山墓地のブゼルの隣に埋骨された。

吉井は熊本県出身。東北帝国大学地質学科学士の頃ブゼルのバイブル・クラスに学んだ。1963 (S38)年 3 月急逝

三島かほる

1903(M36)年 1 月 15 日仙台市生まれ。1915(T4)年尚絅女学校入学、1920(T9)年卒業後、神戸女学院大学部英文科に進学。1924(T13)年卒業後尚絅女学校に英語教師として奉職。1928(S3)年結婚のため退職するが、1934(S9)年理事に選任され、その後理事として三十年、更に監事として四年間学校の運営に携わる。

1947(S22)年尚絅同窓会長に選任され、前後十八年間会長を務めた。戦後の厳しい時代に、同窓生有志と共に、生活必需品などをリヤカーに積んで、仙台市内の生活困窮者の集まる地区に運び、無料で配ったり廉価で販売したりした。また 1960(S35)年、後援会設立にあたって副会長に就任、その後、二十六年間後援会活動に従事した。

1948(S23)年の仙台 YWCA 創立時には、創設委員を務め、後には会長も務めた。1987(S62)年 6 月 9 日、夫君三島保の後を追うようにして永眠。享年八十四歳。

11.5 名取キャンパスへの統合移転

この頃、短期大学家政科、保育科、英文科は多くの志願者を集めていた。1977(S52)年 4 月、木村和彦が学長に就任し、1978(S53)年四年制大学設置を含む「尚絅女学院短期大学今後のビジョン」七項目を発表した。1979(S54)年、「将来計画検討委員会」が設置された。1983(S58)年には名取市への統合移転、四年制大学の設置等からなる「尚絅女学院の建設構想」が発表された。

1989(平成元)年、名取キャンパス第一期工事が完成し、二十年来の懸案であった統合移転が実現した。短期大学には家政科、保育科、英文科に加え、人間関係科が新設され、四学科体制となった。

1979(S54)年、短期大学尚学会が父母教師会から分離して誕生した。

11.6 尚絅学院大学の誕生と発展

四年制大学設置はジェッシーのジュニア・カレッジ構想、吉井の学院拡張十五ヶ年計画以来尚絅女学院の長年の懸案だった。

1992(H4)年をピークに十八歳人口が減少する中で、1999(H11)年、深田寛理事長と大崎節郎学院長が就任し、四年制大学設立に向けた動きが本格化する。「尚絅女学院募金事業」が開始され、2002(H14)年4月大学設置準備室が発足、設置認可手続を経て、2003(H15)年4月、男女共学の尚絅学院大学が開学し、初代学長に渡部治雄が就任した。

法人名も「尚絅女学院」から「尚絅学院」へと変更された。四年制大学開学時は人間心理学科、健康栄養学科の二学科体制だった。

総合人間科学部設置の趣旨

尚絅学院大学設置申請書(2002年)より

「本〔総合人間科〕学部は人間を「こころ」と「からだ」の統合と考える立場から、生命活動を支える食と健康の視点からみた人間の「からだ」の問題と、社会環境の変化に揺れ動く精神活動の主体としての人間の「こころ」の問題について、一つの学部の下で、総合的に教育研究を行うことを目的としている…

人間科学という言葉は、元来、人間に関してその思想や個人的及び集団的な行動や人間のつくり出す諸事象、諸組織について研究する科学の総称として用いられ、旧来の人文科学や社会科学よりも広い総合的概念としてフランスで最初に使われた。日本で学部名称として使用したのは大阪大学が最初で、学問分野としては心理学、教育学、社会学、行動科学等の分野を包摂する総合的な科学の意味で使われ、わが国ではそのような学問を表現する名称として定着している。

本学では、人間をあくまで「こころ」と「からだ」の統合として理解し、現代社会における人間性の回復を「健康なこころとからだ」の回復という視点から究明することを大きな課題としている。したがって、人間の「からだ」「からだの健康」「健康と栄養」などを教育研究の対象とする医学や食物栄養学などの、人間に関わる自然諸科学をも包含し、総合性を一層高めた内容の人間科学の構築を目指す意味で、「総合人間科学」という名称を使っている。」

2002(H14)年「文化・産業事業支援に関する協定」名取市と締結。2003(H15)年、オープン・カレッジや市民大学講座等の事業開始。

2007(H19)年心理学専攻、健康栄養科学専攻からなる大学院総合人間科学研究科が設置されるとともに、総合人間科学部に表現文化学科、現代社会学科、生活環境学科の三学科が設置され、五学科体制となった。

女子短期大学部生活創造学科、英文科は2006(H18)年度に募集停止され、2009(H21)年3月に廃止された。

尚絅女学院の英文科

英文科は1920(T9)年高等科開設当初から設置され、「英語の尚絅」と言われた時代もあった。1940(S15)年に一旦廃止、1946(S21)年に再設置、1950(S25)年、短期大学創設と同時に英語科としてスタートしたが、1958(S33)年に学生募集を停止した。1967(S42)年に改めて英文科を設置したが、四年制大学移行時には、英文科は女子短期

大学部英文科として残され、2009(H21)年、女子短期大学部英文科も廃止となった。その伝統は、表現文化学科に引き継がれている。

2009(H21)年、名取キャンパスに”3C”(Collaboration, Concentration & Communication) をコンセプトとする図書館が完成した。

同年白石市で第一回尚綱メディア・フェスタが開催された。また、「生涯学習センター」が名取市増田に開設された。東日本大震災の際には、生涯学習センターが、名取地区における被災者支援の一拠点となり、学生・教職員と共に生涯学習講座受講生が支援活動の担い手として活躍する。

2010(H22)年 4 月、子ども学科が設置された。2011(H23)年 5 月、エラ・オー・パトリック・ホーム移築復元工事が完了、竣工式が行われた。

同年 12 月、宗教的伝統を共有する米国ジャドソン大学(アメリカン・バプテスト、シカゴ)との間で交流協定を締結した。

学内公募で選定された愛称 ”almo” はイタリア語で「恵み」の意味

尚綱女学院の保育科

尚綱女学校に保母科が設置されたのは、高等科が専攻部と改称された 1936(S11)年である。1941(S16)年、保育科に改称した。

戦後、短期大学創設時には保育科は設置されず、1955(S30)年、幼稚園教諭養成課程として保育科が開設された。翌 1956(S31)年、実習園として尚綱女学院幼稚園が設置された。保母養成施設(現在の保育士養成施設)に指定されたのは 1963(S38)年である。2003(H15)年の大学開学に際しても、四年制の課程としては幼稚園教諭・保育士養成課程は設置されず、尚綱学院大学女子短期大学部保育科として 2009(H21)年まで募集を継続した。

四年制大学開学から七年経った 2010(H22)年 4 月、幼稚園教諭・保育士養成課程を含む四年制の子ども学科が設置された。これに伴い、2011(H23)年 3 月、短期大学部保育科は廃止された。

11.7 震災後の尚綱学院大学

2011(H23)年 3 月 11 日、東日本大震災が発生した。本学院の建物被害は比較的軽微であったが、二名の学生を失い、多くの学生・教職員・同窓生やその家族が被災した。同窓会、後援会、尚学会など本学院関係者すべてに呼びかけて、救援献金「オール尚綱で助け合おう」を開始、一千万円以上の義援金が集まった。学生を中心とする被災地支援活動は、ヴォランティア・グループ TASKI を中心に、他大学等とも連携しながら、現在も精力的に継続されている。

2012(H24)年 5 月、大連理工大学と交流協定を締結した。また、大学教育の改善と地域貢献を目的とした研究活動のために総合人間科学研究所を設置した。

同年 11 月、大学礼拝堂が竣工した。これは 1989(平成元)年の名取キャンパス移転以来、資金面から延期されていたものである。

2012.11 礼拝堂竣工
礼拝堂のコンセプトは「調和」「神聖」「静謐」

戦後の尚綱 — 根づいた花

2015(H27)年4月、生活環境学科を基にして「環境構想学科」がスタートした。これを機に全学科でカリキュラム改革を実施した。

2016(H28)年からは、学科横断コースとして国際教養コースが設置され、海外の交流協定校も、米国、中国に加え、台湾、韓国、ロシアの計六大学に拡大した。

2017(H29)年には、宮城県川崎町との間で包括的な連携協定が締結された。また、学科横断型コースとして「地域実践コース」が開設された。

同年、尚綱学院大学総合人間科学会が発足した。また、総合人間科学研究所に環境デザイン教育研究センター及びアクティブ・ラーニング研究・実践センターが設置され、活動を開始した。

また移転以来、当時の基本的コンセプトで維持されてきた校舎についても、アクティヴ・ラーニング(主体的対話的な学び)を支える新しいラーニング・コモنزの考え方を取り入れた整備(ラーニング・ステーション、ラーニング・スポット、コモنز・カフェなど)に着手している。これは、学習支援センター(2016年設置)、契約寮(2016年度～)とこれを結ぶ通学バス、給付制奨学金やワーク・スタディ制度(2016年度開始)、図書館の利便性の向上などとともに、学生の学修を中心とする生活全体をトータルに支援する環境整備、「尚綱コモنز」の一環として位置づけられている。

尚綱学院大学は、「キリスト教の精神を土台とし、自らを磨き、他者と共に生きる」という建学の精神を継承しつつ、教職員と学生との身近な距離感を大切にしながら、常に新たな伝統の創造に向けて進化を続けている。



現在の尚綱学院大学